

事業完了（廃止等）報告書

調査研究期間等

調査研究期間	令和3年5月11日 ～ 令和4年3月10日
調査研究事項	<p>《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》</p> <p>I 教育課程に関すること</p> <p>II 広報・相談体制の充実にに関すること</p> <p>V 環境整備に関すること</p> <p>VI その他夜間中学における教育活動充実にに関すること</p>
調査研究のねらい	<p>【東大阪市立意岐部中学校】</p> <p>I 教育課程の編成や指導上の工夫・改善について 夜間中学に対するニーズが多種多様化している。在籍生徒は、日本語理解の十分でない外国籍生徒が多数を占めている。一方で高齢の義務教育未修了者や様々な年代の既卒の学び直し生徒も学んでいる。生徒の状況を的確に把握し、生徒支援方法・方策の工夫改善、日本語指導の必要な生徒への学習カリキュラムやおとなの中学生に適したカリキュラムの研究を進める。研究を通して、本校の夜間中学生が自分の思いや願いを自分の言葉、日本語で表現していく力をつけた姿をめざして、多様なニーズに応じた「夜間中学の学び」を整理し、日本語学習の教材開発と「学び直し」生徒のカリキュラムを創る。</p> <p>II 広報や相談体制について 東大阪市の再編整備によって中地区に新設された夜間中学で3年目を迎えるが、新型コロナの拡大により地域との行事やイベントが中止となった。今後は新しい形での広く周知する方策および学びたいと思っている人への相談体制を構築する。</p> <p>VI 教育活動を充実させていくために 日本語の十分でない外国籍生徒の学びを保障していくため母語対応の充実や日本語指導の効果的な方策を研究する。 全国各地に夜間中学が新設されている状況から、近畿をはじめとして全国の夜間中学との交流や情報交換を積み重ね、日常の授業・行事・特別活動の活性化を図る。 意岐部中学校ブロックの小中学校との交流や同ブロックへの発信を通じて生徒にとっての豊かな学びを考える。</p> <p>【東大阪市立布施中学校】</p> <p>I 教育課程の編成や指導上の工夫・改善について ・「確保法」施行以来、「学び直し」の在籍生徒は増加してきており、中には高校への進路を目指す生徒もいる。</p>

	<p>・新渡日の外国人の生徒の入学(特に、中国、ネパール、ベトナム)が年々増加してきている。また、近年ではシリアやイランなどからの入学希望生徒もあり、多国籍化が進んでいる。</p> <p>・依然として未就学の高齢者も在籍している。</p> <p>以上のことを踏まえ、様々な状況を抱える生徒に対応できるよう教育課程の構築をめざす。具体的には、昼の中学と同じ9教科の学びを軸に、特に、進学を目指す生徒については、教科書を使用した授業の展開、選択授業を設定するなど、個々の進路の実現に対応していく。また、在籍生徒のうち多数を占める外国籍の生徒については、一人ひとりの学習経験や日本語の習得状況に合わせた個別のニーズに応じた授業の工夫(日本語基礎学習時間の設定)や、日本の文化・生活習慣などを学べる授業を行う。このように生徒それぞれの民族文化や日常生活に寄り添いながら、日々の授業を大切に積み重ねていくことによって、生徒自身が自分の文化に誇りを持って豊かな生活を送れる姿をめざす。</p> <p>V 環境整備に関すること</p> <p>2019年度から現在の場所に新校が建てられスタートしたが、教室数の不足や校舎周辺設備、環境など、まだまだ不十分である。より良い学習環境づくりのために、課題の解決に向け、方策や改善策を研究する。</p> <p>近畿夜間中学校の行事への参加や情報交換などについて、取り組み方や在り方についての研究を進め、より豊かな生徒の学びにつなげていきたい。</p> <p>VI その他夜間中学における教育活動充実に関すること</p> <p>今年度はコロナ禍のために様々な取り組みの中止や制限がなされたが、十分な対策のもと可能な限りではあるが、夜間学級の取り組み(学習発表会や芸術鑑賞会など)を校区の3連合自治会会長にも案内をしてきた。また、夜間学級の開級と同時に地域の方々にグラウンドと体育館の施設開放を行い、投票所としても夜間学級体育館・多目的室が利用されている。学校内外の掲示板を積極的に利用し、学習活動の様子を学校通信や生徒募集のポスター掲示、生徒募集のチラシ配布などを行い、地域に根差した夜間学級の存在を地域に広くアピールしたい。</p>
調査研究の成果	<p>【東大阪市立意岐部中学校】</p> <p>今年度も新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言や感染防止策の対応の中で、できることを工夫して調査研究をすすめてきた。</p> <p>I 教育課程の編成や指導上の工夫・改善について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会、教科研究会、授業研究会の開催を定例化し毎月1回、生徒の情報交換と共有および教科指導方法の研修と授

業公開を行った。

- ・ 布施夜間中学との合同研修は2か月に1回および夏季1日合同研修を行い、教材交流・検討、夜間中学に求められる「学び」について研究・研修を進めることができた。
- ・ 近畿夜間中学校連絡協議会の各教科部会へ毎月参加し、教材研究を行い、日々の授業に活用してきた。
- ・ 上記の研究・研修を重ねる中で、新しい夜間中学の「カリキュラム」を研究・検討し作成してきた。今年度は夜間中学の教育目標「四本の柱」を提起し共有化できた。次年度は各教科のねらいなどを具体化することとなっている。

II 広報や相談体制について

- ・ 意岐部夜間中学を知ってもらうために行事やホームページでの発信の内容を工夫してきた。特にホームページについては更新回数も増え、ホームページを見たと入学希望で来校する人もいた。また生徒募集チラシの配布を生徒とともにいたり、教育委員会を通して市内のリージョンセンターにチラシの配架をしてもらったりと、広い範囲に周知していくきっかけができた。
- ・ ホームページの多言語化も本市の多文化共生情報プラザの協力のもとに進めることができた。

VI 教育活動を充実させていくために

- ・ 日本語理解の十分でない外国籍生徒の学びを保障していくため母語対応の充実や日本語指導の効果的な方策を研究してきた。中国人講師の配置や多言語翻訳機の使用など、生徒と母語で対応することができ、生徒の安心感や学習理解につながった。
- ・ 全国各地に夜間中学が新設されている状況から、全国夜間中学校研究大会を通して、近畿をはじめとして全国の夜間中学との交流や情報交換を積み重ねることができた。
- ・ 意岐部中学校ブロックの小中学校との交流・発信として「意岐部フィエスタ」に出演できた。また習字の学習で小学生とのコラボ作品の作成を通じて、児童・生徒が互いに深く学びあうことができた。

【東大阪市立布施中学校】

I 教育課程に関すること

- ・ 定期的に教科ごとの研究や生徒についての情報共有や理解を深める研修を実施し、生徒の実態に応じた教育活動を展開することができた。特に学校生活に課題のある生徒について、

外部の機関とも連携して丁寧に生徒理解につなげることができた。

- ・毎月開催される近畿夜間中学校連絡協議会での各教科部会に参加して教材研究を行い、共有することができた。
- ・定期的に意岐部中学校夜間学級との合同研修会をもち、実践交流や新たな教育課程を検討するなど東大阪市の夜間中学として課題などを共有することができた。

II 広報・相談体制の充実に関すること

- ・布施中学校夜間学級をよく知ってもらうため、行事や日々の学習活動について、ホームページで随時発信することができた。
- ・夜間中学に入学を希望される方について、通訳を含めて丁寧に対応することができた。

V 環境整備に関すること

- ・校内でヒマワリやアジサイ、サツマイモなどを栽培し、緑化整備をするとともにiPadを使って観察記録をつけるなどの学習活動につなげることができた。またサツマイモについては苗植えから収穫までを生徒が体験することができた。

VI その他夜間中学における教育活動充実に関すること

- ・研修や教材研究を積み重ねてきたことで、夜間中学生の実態に合う授業内容を創り上げることができた。
- ・始業前にゼロ時間目を設定し、抽出や自学の時間に充てることができた。
- ・日常生活を送るうえで不可欠な情報（新型コロナウイルス関連、災害に関する緊急速報など）を自分で適切に受け取ることができるように、iPadやスマートフォンで情報収集の仕方を丁寧に指導することができた。
- ・生徒自身が生き立ちを振り返り、夜間中学で学ぶ現在の思いや願いを作文集にして発表することができた。